

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

令和2年度 兵庫県農業気象技術情報第6号 (10月情報) について (送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全 県 共 通	1 生育等 中～晩生品種の出穂期はやや早かった。成熟期もやや早くなると見込まれる。出穂後、収穫までの積算温度は1,000℃～1,050℃日が必要で、適期収穫に努める。収穫籾は急速に乾燥させないように注意する。毎時乾減率の目安は、うるち米で0.8%以下、酒米で0.5%以下である。	
		2 病害虫 トビイロウンカの発生は多いと予想される。9月9日、10日に普通期栽培水稲を対象に実施した調査では、発生圃場率は100% (35/35圃場)であった。上記の払い落とし調査では、要防除水準(5頭以上/株)を超えている圃場は、37.1% (13/35圃場)であり、過去に警報を発表した平成26年の圃場率(15%)の2倍以上である。	2 病害虫 これまで本田での防除を実施していない圃場は、坪枯れが発生する可能性が高い。圃場で株元を観察して、本種の群棲が認められたら被害の拡大を防ぐため、直ちに薬剤散布を行う。薬剤散布にあたって、粉剤、液剤は本種が生息する株元まで十分届くように散布する。粒剤は処理後の湛水状態を少なくとも数日間保つようにする。収穫期に近い時期の薬剤散布となるので、特に使用する薬剤の収穫前日数をよく確認する。詳細は、病害虫発生予察警報第1号 (令和2年9月16日発表) を参照のこと。 ( <a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02keihou1.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02keihou1.pdf</a> )
大豆	全 県 共 通	1 生育等 普通大豆は台風による降雨等の影響もなく、着莢数は平年並である。「サチユタカA1号」は難裂莢性であるが、刈取りが遅れると品質が低下するため、他品種と同様に適期収穫に努める。 一方、黒大豆は8月の干ばつと高温の影響で着莢数はやや少なく、生育も遅れ気味である。また、湿害による生育不良や茎疫病の発生が見られる。排水対策に努め、土壌水分を適切に保つ。  <刈取り適期の目安> ・子実水分20%程度 (莢を振ると音がする) になったとき。 ・コンバイン収穫の場合は、茎水分50%以下になったとき。目安としては茎がやや黒みを帯びて、手でポキッと二つに折れるとき。刈取り前には青立ち株を引き抜く。	

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
大豆 (つづき)	全 県 共 通	<p>2 病害虫</p> <p>(1) 立枯性病害は、平年並の発生と予想される。</p> <p>(2) ハスモンヨトウは、8月下旬の現地調査では、白変葉が0.5カ所/a (平年値0.1カ所)、発生圃場率27.5% (同12.8%) であった。9月上旬の予察圃場では、幼虫が28頭/25株 (平年値3.7頭)、白変葉が3カ所/a (同0.3カ所) と、いずれも平年より多い発生が確認されている。</p> <p>(3) 吸実性カメムシ類は、8月下旬の現地調査では発生密度0.5頭/10株 (平年値0.1頭)、発生圃場率27.5% (同22.6%) と、平年よりやや多い発生であり、今後、気温は平年より高いと予想されていることから、着莢期以降、カメムシ類の活動がさらに活発になると考えられる。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>(1) 立枯性病害は排水不良が発病を助長する。急激かつ大量の降雨による停滞水が起こらないように排水対策等を実施して、圃場管理に努める。</p> <p>(2) 本種の防除上の留意点については後述するキャベツの項を参照。</p> <p>(3) 着莢期以降、成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続けるため、薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針 (兵庫県農薬情報システム) 等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。病害虫・雑草防除指導指針 (兵庫県農薬情報システム) (<a href="http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo">http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo</a>)</p>
麦	全 県 共 通	<p>1 栽培管理 (播種準備の留意事項)</p> <p>(1) 計画的な播種を行うため、水稻刈取り後、出来る限り早く、圃場の排水対策を行う。</p> <p>(2) 出芽、初期生育を良くするため、圃場のpH調整を十分に行う。pHが低いと生育不良を招く。</p> <p>(3) 有効茎数を確保するため、地域に合った播種時期・播種量とする。</p> <p>(4) 施肥播種機の調整をしっかりと行う。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 特に圃場の四隅にコンバインによる轍(わだち)ができないようにする。水稻の刈取り後、耕うん前に弾丸暗きょや額縁明きょを設け、表面排水を行う。本暗きょがない場合は、通常の弾丸暗きょの設置に加えて、排水口手前を40cm程度掘り下げ、3本程度の放射状の弾丸暗きょをサブソイラーで施工する。</p> <p>(2) 石灰質資材は早めに施用し、土壌pH6.0～7.0になるように調整する。土壌pHが低い圃場は、施用量を増やす。</p> <p>(3) 耕うんは播種直前に行い、県北部及び中山間部では10月下旬から、県南部では11月上旬から播種を行う。ただし、「ゆめちから」は10月下旬から播種を行う。 播種量は10a当たり、10月下旬で6kg、11月上旬で8kg、播種時期が遅くなれば、播種量を増やす。</p> <p>(4) 播種前に播種量、施肥量、播種深度を調整してから播種し、播種時に微調整する。播種後、排水溝の設置、手直しを行う。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 9月に入り、猛暑が緩み、適度な降雨もあり、活着、生育が進みつつある。</p> <p>(2) 適切な時期に追肥、除草を行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガは、加西市(農技センター内)で実施している調査で、クレオメへの寄生花枝率が8月の平均値80.8%(平年値23.3%)、9月第1週も88%(同29.8%)と、依然として非常に高い状態が続いている。今後、気温は高く、降水量は少ないと予想されており、本種の発生に好適な条件が続くと考えられる。</p> <p>(2) 加西市又は南あわじ市におけるハスモンヨトウのフェロモントラップ調査において、誘殺数は、9月以降急増し、平年の1.5倍～4.8倍と、多い発生となっている。また、南あわじ市におけるシロイチモジヨトウのフェロモントラップ調査において、8月下旬以降急増し、平年の2.5倍と多い発生となっている。今後、気温は平年より高いと予想され、本種の発生に好適な条件が続くことから、被害の発生に注意が必要である。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 10月以降も平均気温は高く、降雨は多い見込みである。 台風に伴う強風雨で茎葉が傷んだ場合、病害発生に注意し、早期に防除する。 また、降雨後に滞水のないように排水に努める。</p> <p>(2) 結球開始初期の追肥は、畝肩または畝間に施用し、除草を兼ねて谷上げし、遅れないよう計画的に作業を行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) 幼虫が生長点を加害するため、被害を確認してから防除では手遅れとなる。本種の発生が懸念される場合は、定植前後の予防的防除に努める。なお、本種の防除対策等の詳細は令和2年度病害虫発生予察注意報第2号(令和2年8月7日発表)を参考にすること(<a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02tyuuihou2.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02tyuuihou2.pdf</a>)。</p> <p>(2) 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、若齢幼虫期の防除を徹底する。シロイチモジヨトウは茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意する。なお、これらの発生状況と防除対策は令和2年度病害虫発生予察注意報第4号(令和2年9月16日発表)を参考にすること。 (<a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02tyuuihou4.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02tyuuihou4.pdf</a>)。</p>
果樹	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 降雨や過熟等による果実品質の低下に留意し、適期収穫に努める。</p> <p>(2) 傷害果や腐敗果等の除去に努める。</p> <p>(3) 翌年に向けた貯蔵養分蓄積のため、収穫後も葉を健全に保ち、樹体栄養の回復を図る。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 熟度や果皮色等から、収穫適期を判断する。</p> <p>(2) 温州ミカンの日焼け果は裂果しやすく、病害の発生源となるので樹上選別で除去する。 イチジクの落果や腐敗果は、ショウジョウバエ類の発生につながるため、できるだけ早く園外に持ち出し処分する。また、疫病等の発生状況によっては出荷を一時停止し、臨機防除を行う。</p> <p>(3) 樹体栄養の回復を図るため、適切な礼肥の施用や、少雨時のかん水を行う。</p>

果樹 (つばき)	全 県 共 通	樹種別の生育状況（9月下旬：南あわじ市）	
		温州ミカン	着果の多い園が多く、8月の干ばつで一時的に樹勢は落ちたが、9月に適度に降雨があり、樹勢は良好である。
		<p>2 病害虫</p> <p>(1) チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は表年（発生が多い年）に該当する。フェロモントラップによる調査において、チャバネアオカメムシの8月2半旬～9月1半旬までの1カ月の合計誘殺数は、加西市では123.5頭(表年の平年値66.6頭)、朝来市では562.2頭(同151.1頭)と、表年としては平年よりやや多い状態である。気温は平年より高いとされており、本種の活動に好適な状況が続くため、これから収穫期を迎えるナシ、カキ等の果実への加害が懸念される。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>(1) 発生状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。詳細は病害虫発生予察防除情報第2号（令和2年9月16日発表）（<a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojyo/02boujyo2.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojyo/02boujyo2.pdf</a>）を参考にすること。薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）（<a href="http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo">http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo</a>）</p>

※本情報は、9月28日時点のデータを元に作成しています。

## 2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（9月26日～10月25日）

[令和2年9月24日 大阪管区气象台発表]

### <予想される向こう1か月の天候>

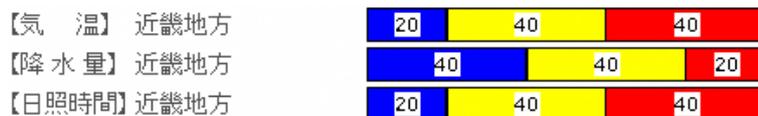
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率50%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

### <気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: 低い 平年並 高い

(2) 近畿地方の向こう3か月予報 (10月～12月)

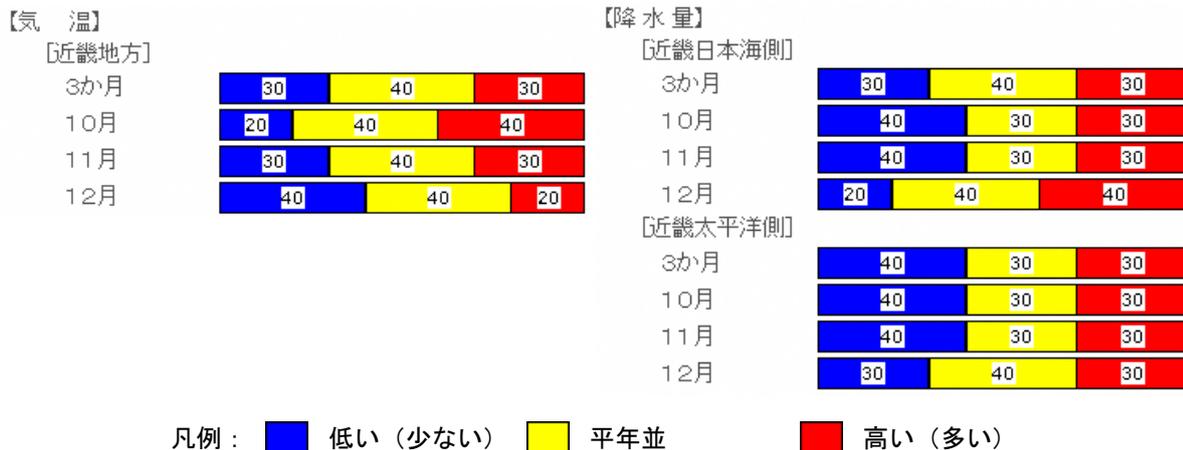
[令和2年9月25日 大阪管区気象台発表]

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

- 10月 天気は数日の周期で変わり、近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
- 11月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 12月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」  
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」  
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」  
[http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11\\_000000107.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078)341-7711(代表)  
農産班:主作・機械担当 内線 4069  
農産班:野菜担当 内線 4054  
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター  
企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435  
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410  
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790)47-1222  
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230  
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : [http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11\\_000000097.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html)  
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)